

カリキュラム(計画) 外国人児童生徒指導リーダー研修(5月23日)

作成者 氏名：高島 美保

養成・○研修 / 基礎・○専門・支援員 (該当するものに○)

★参照したモデルプログラムNO. (報告書 pp. 207-244) 下線：内容・項目 (pp. 72-76)

日時・場所	2018年5月23日(水)13:30～16:00 時間:150分 於:浜松市教育センター		
実施団体・機関	浜松市教育委員会		
研修・授業名	外国人児童生徒教育スキルアップ研修(1)・外国人児童生徒指導リーダー研修①		
受講者	<ul style="list-style-type: none"> ・人数:45人(予定) 日本語指導担当者 ・年齢層:20代数名 30-40代20名 50代20名 ・その他:加配教員21名、JSLカリキュラムによる授業実施が求められている教員14名 リーダー候補教員10名 		
演題・テーマ☆	JSLカリキュラムの授業づくりー教科と日本語の統合学習 ☆研修内容(報告書 pp.72-76)を反映		
到達目標	国内の外国人児童生徒等に対する教育の課題を知り、教育・支援に対する意欲を高める		
活動展開(分)		★ 形態	留意点
活動1 事例紹介 受け入れの体制と日本語指導の方法(30分) 報告者:大田正之(和地小学校)			
事例紹介:浜松市立和地小学校 「つかむ・つなぐ・関わる」		講義	・コース設計(日本語プログラムの組み合わせ)・DLAの活用
1 実態の把握と指導対象児童の決定(10)	①⑨		・文科省「受け入れの手引き」,「DLA」
2 日本語指導の内容と方法(10)	①⑦		実施校の時間割
3 学校内での体制づくり・連携の仕方(10)	⑤		
活動2 JSLカリキュラムに関する講義(120分)		講師:齋藤ひろみ(東京学芸大学)	
導入:		話し	・日本語を使わずに自己紹介
0 アイスブレイキング(自己紹介)(10)	⑩	合い	名前、学校、好きな動物
1 子ども作文から、言語習得の課題を把握する(10)	⑫	講義	・文化間移動と学びの分節化／連続性の保障を強調
展開:			・文科省「JSLカリキュラム報告書」
2 日本語指導を通じて育成する力(30)	⑬	講義	・齋藤ひろみ
3 「JSLカリキュラム」の考え方(20) (教科と日本語の統合学習)	⑭	演習	他『外国人児童生徒のための支援ガイドブック』
・日本語指導で、教科の知識を活用する			・広島市立基
・内容を重視する日本語指導(JSLカリ)			町小学校公開
4 JSLカリキュラムの事例(30)	⑮	話し	研究会時資料
・小学1年生 算数科「12-3(減減法)」		合い	・笹川東小学
・小学5年 算数科「平均」			
・小学5年 社会科「気候」		講義	
			・日本語指導であることを確認
			・演習(料理の作り方の説明)で、生活言語能力と学習言語能力の理解を促す。
			・クイズ(語彙調査結果)で実態把握の重要性を理解。
			・話し合いを行う。事例1で

公益社団法人日本語教育学会・文部科学省委託「モデルプログラム事業」2018

<p>6 JSL カリキュラムの<u>授業づくり</u> (10)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業展開 ・活動単位と日本語の表現 <p>まとめ：</p> <p>7 JSL カリにける <u>5つの支援</u>の重要性 (10)</p>	<p>⑳</p>	<p>講義</p>	<p>は「問いかげのことば」事例2では「平均の教え方」事例3では「教科の知識の活用」。</p>	<p>校平成 29 年 度実践／板橋 区立第八小学 校高橋教諭の 実践</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------	-----------	-------------------------------------------------	---------------------------------------------------------